

○方向性について

総合計画

小田原ゆかりの文化の保存と活用

市民文化創造の支援

| 文化振興ビジョン                               |  |  |  |  |      |  |
|--|--|--|--|--|------|--|
| 方向性                                    | 要素   | 委員の意見  |  | 備考   |      |  |
| 風土の知恵<br>生かす<br>学ぶ<br>見直す<br>守る<br>伝える | 風土の知恵  | ・「小田原らしさ」に徹底的にこだわる。  | 大森委員   |  |      |  |
|  |  | ・まず知ることから。小田原学から。  | 大森委員   | 取り組み   |      |  |
|  |  | ・大都市と競争しない独自性。   | 神馬委員   |  |      |  |
|  |  | ・まちづくりの大きな要素となるような素材性。   | 神馬委員   |  |      |  |
|  |  | ・自然と歴史に恵まれた豊かな生活基盤の備わった小田原市の文化環境を生かした施策を、市民と行政の協働で達成する仕組みづくりが必要。   | 間瀬副委員長   |  |      |  |
|  |  | ・文化の創造・発展は、ただ新しいものを求め、古いものを墨守するだけでは生まれてこないように思う。独自の歴史・風土を踏まえて生まれてきた古いものを前提に、新しいものを創造してゆく、この繰り返し、個性ある文化を創造・発展させてゆくための王道ではないか。この点からすると、小田原の目指す文化の方向性については、一つに、固有の風土や歴史資産と様々な新たな創造行為（ソフト・ハードの両面）とが、互いに共鳴し調和して活かしあうような形がイメージされてくる。 | 山口委員   |  |      |  |
|  |  | 地理   | ・東京から80キロ、時間距離（新幹線）で30数分。  | 石塚委員長  |      |  |
|  |  | ・海・山が近く自然に恵まれていること。  | 石塚委員長  |  |      |  |
|  |  | ・交通の要衝であり多様な嗜好に応える必要があるなどの地理的な特性から、産業(生業)としての質(付加価値の度合)も高い。  | 平井委員   |  |      |  |
|  |  | ・日本有数の観光地箱根を控えていること。   | 石塚委員長  |  |      |  |
| なりわい                                   | ・小田原の周辺の箱根、湯河原、真鶴の美術館との出会いを活かしていくことを思考。  | 杉崎委員   | 取り組み   |  |      |  |
|  | ・斉藤緑雨が「海よし、山よし、天気よし」と評したように、風土面での小田原の特徴としては、山と海とが複合した地形・景観や温暖な気候が挙げられる。小田原の文化は、この風土的前提なしには考えられない。                      | 山口委員   |  |  |      |  |
| 歴史                                     | ・「なりわい文化」とは、多様な自然をベースとして奥行き深い産業(生業)と生活とが長い年月をかけて育まれてきた文化的風土を指す。  | 平井委員   |  |  |      |  |
|  | ・小田原は海・山・川・里といった多様な自然に恵まれている。同時に、その恵みを最大限引き出す1次・2次・3次にわたる重層的な産業(生業)が展開されてきた。良質な自然と産業に支えられて、奥行きや味わいの深い生活が営まれてきた。        | 平井委員   |  |  |      |  |
|  | ・城下町・宿場町で様々な歴史・文化・伝統が残されていること。   | 石塚委員長  |  |  |      |  |
|  | ・二宮尊徳の出身地であること。  | 石塚委員長  |  |  |      |  |
|  | ・多くの歴史遺産を地域文化資源ととらえ、まちの活性化のツールとする仕組みを研究する。   | 間瀬副委員長   |  |  |      |  |
| 人の熱意<br>繋ぐ<br>育てる<br>生かす<br>創る         | 絆  | ・小田原は、歴史と文化のまち。  | 大森委員   |  |      |  |
|  |  | ・歴史面では、古さと新しさの共存が顕著に認められる点に、その特徴の一つを認めることができると思う。中心市街地の真ん中に位置する小田原城跡や小田原城総構の上に建てられた清閑亭の周辺、また古東海道に沿って北条時代やそれ以前からの由緒をもつ寺社と近代の別邸が混在する板橋地区の景観等は、その代表例といえる。   | 山口委員   |  |      |  |
|  | 市民文化創造の支援  | 人の熱意   | ・地域の絆にかかわるもの   | 平井委員   |      |  |
|  |  |  | ・住宅ゾーンは、地域住民が率先してブロック塀などを取り払い、花や緑豊かなオープンガーデンを配置し、住民同士が対話しやすいような美しい町並みにしていく。    | 岩城委員   |      |  |
|  |  |  | ・自然と歴史に恵まれた豊かな生活基盤の備わった小田原市の文化環境を生かした施策を、市民と行政の協働で達成する仕組みづくりが必要。               | 間瀬副委員長   | 再掲   |  |
|  |  |  | ・小田原市民が自慢できるまちを目指す為、市民の文化力向上と行政の文化化を目指し、市民と行政で知恵を出し合い、まちを活性化させ、まちを磨き上げる事が必要です。 | 間瀬副委員長   |      |  |
|  |  |  | 多様性  | ・多様性が共存するまちを目指したいと思っています。  | 鬼木委員 |  |
|  |  |  |  | ・小田原の姿を、型にはまったものに特定しないで、様々な価値観や様々な行動様式が共存できる柔軟性のある文化を目指したいように思います。   | 鬼木委員 |  |
|  |  |  |  | ・文化は多様な価値観が、お互いを損ねることなく存在できる基盤となるものであり、多様性こそが、次の文化を生む創造性を育むもの、持続可能な都市を支えるものだからです。                          | 鬼木委員 |  |
|  |  |  |  | ・未来を担う次世代にも、現在のまちに対して期待をかける同等の権利があります。未来に生きる価値を生み出すことも、現在の文化振興の役割です。過去と現在と未来が共存できるような多様性を共存させていきたいと考えています。 | 鬼木委員 |  |
| ・「小田原らしさ」を大切にしながらもさまざまな人に受け入れられる普遍性。   | 神馬委員   | 取り組み   |  |  |      |  |
| 柔軟性                                    | ・さまざまな事柄と連携する柔軟性。  | 神馬委員   |  |  |      |  |
| 自立性                                    | ・人づくりの在り方を考えたらどうか。現在の日本の混迷は端的に言うと、戦後の偏差値教育の限界を露呈したものであると思う。小田原市は厳しい環境に置かれても自立し生きる力を持った逞しい人をつくる教育を他に先駆けて打ちだし実践してみたらどうか。 | 石塚委員長  |  |  |      |  |
| 自律性                                    | ・そのまちの文化を考えることは、自治について考えることでもあります。   | 鬼木委員   |  |  |      |  |

芸術文化創造拠点の整備

文化交流の推進

|                                 |   |  |   |      |      |
|---------------------------------|---|--|---|------|------|
| 都市の力<br>磨く<br>伸ばす<br>創る<br>発信する | 感性  | ・「この街に住んでいると心が安らぐ」。「家に帰るとほっとする」。といったように、市民一人ひとりが感性豊かな日々が送れるよう、身近な視点から文化芸術をとらえていく。  | 岩城委員  |      |      |
|                                 |   | ・ 絵画は目で楽しみ、音楽は耳で楽しみ、料理は舌で味わう楽しみ。おいしいか、まずいかは理屈ではない。たちどころに分かる。美術でも本人の感じ方一つです。そこから料理の材料や味付け。料理人はどのような人、このアーティストはどんな人ということになろう。先入観のない鑑賞の場づくりが大切だと思います。 | 杉崎委員  | 取り組み |      |
|                                 |   | ・ 鑑賞の目をやしないながら本物を知り自身がどのような担い手になれるのかが見えてくるのではないかと  | 杉崎委員  |      |      |
|                                 |   | ・ 「体験型」であること。→バーチャルリアリティにいた人たちが、どんどんリアルな世界に入ってきている。リアルな体験を求めている人が多い。最近の博覧会で一番人気があるものは、リアルな体験をするもの、五感を使って感じるものだと思います。                               | 大森委員  | 取り組み |      |
|                                 | 産業  | ・ 優位性を小田原市の将来構想にどのように組み込むかが  | 石塚委員長   |      |      |
|                                 |   | ・ 文化振興のためには経済的な裏付けが必要であり、その基盤として人口、産業（地場産業・観光業・生産業など）等について長期的な展望に立った対策を考える必要がある。   | 石塚委員長   |      |      |
|                                 |   | ・ 小田原は海・山・川・里といった多様な自然に恵まれている。同時に、その恵みを最大限引き出す1次・2次・3次にわたる重層的な産業(生業)が展開されてきた。良質な自然と産業に支えられて、奥行きや味わいの深い生活が営まれてきた。                                   | 平井委員  | 再掲   |      |
|                                 |   | ・ 経済に深くかかわるもの  | 平井委員  |      |      |
|                                 |   | ・ 小田原の文化と産業との融合からのキーワードを探す。  | 杉崎委員  |      |      |
|                                 |   | ・ 個人商店を大事にし、駅周辺の地域では大型チェーン店の参入を規制する。   | 岩城委員  | 取り組み |      |
|                                 |   | 景観   | ・ 身近にある古い小さな建物や自然に、もう一度光を当てて蘇らせるような地味な活動に 市民をまきこんでいく。 | 岩城委員 | 取り組み |
|                                 |   |  | ・ 景観こそが財産である。   | 大森委員 |      |
|                                 |   | 交流   | ・ 小田原のみでなく近隣自治体、県内、首都圏からも人が呼べるような発信性。                 | 神馬委員 |      |
|                                 |   |  | ・ 小田原を誇りに思えるようなアピール性。                                 | 神馬委員 |      |
| I T C / サブカル                    | ・ アニメやゲーム文化などに触発されたイラスト創作、それらをネットを通じて鑑賞し合う。一日平均2万枚の新作のUP(会員320万人、月間アクセス25億人)、ニコニコ動画や商業アニメ、TVゲームに拮据している。これらの電脳空間のギャラリーが現実の展示空間の必要性となっている。美術手帳6月号に取上げられている。六本木にもニコニコ動画やUチューブを利用してのステージが生まれている。これらの若者文化をどのように取り組んでいくか。 | 杉崎委員   | 取り組み  |      |      |
| 発信                              | ・ 文化振興ビジョンを作成するためには、小田原市の将来構想との関連性が重要である。この優位性を小田原市の将来構想にどのように組み込むかがポイントと考える。   | 石塚委員長  |   |      |      |
|                                 | ・ 文化振興のためには経済的な裏付けが必要であり、その基盤として人口、産業（地場産業・観光業・生産業など）等について長期的な展望に立った対策を考える必要がある。  | 石塚委員長  |   |      |      |
|                                 | ・ 多くの歴史遺産を地域文化資源ととらえ、まちの活性化のツールとする仕組みを研究する。   | 間瀬副委員長   | 再掲  |      |      |
|                                 | ・ 「なりわい文化」を目指すべき文化の方向性にすることで、文化振興を通じて(1)自然 - 産業(生業) - 生活間また産業(生業)間・生活間のつながり(絆)の再生、(2)地域の多様な産業(生業)の持続可能性の確保を図ることができると考える。  | 平井委員   |   |      |      |
| その他                             | ・ 地域文化の振興を「まちづくり」ととらえ、芸術文化をはじめ生活文化、歴史的文化、まちなか文化、等、文化を広義でとらえる。   | 間瀬副委員長   | 意義・課題   |      |      |
|                                 | ・ 文化はまちの住民にとってのアイデンティティのよりどころであり、まちの姿として思い浮かべるのは、すなわちまちの文化の姿に他なりません。  | 鬼木委員   | 意義・課題   |      |      |
|                                 | ・ 文化振興は、狭い意味での文化のためにあるよりも、それを通じて地域の社会関係(絆)や経済、生活の満足度など地域のさまざまな側面をより豊かに高めてゆく、言わば地域の問題を解決するための有力な手段と位置づけた方が、より多くの市民に身近で重要な課題だと認知されと考える。   | 平井委員   | 意義・課題   |      |      |
|                                 | ・ 特に小田原にとって喫緊の課題は、一言でいえば《社会と経済の再生》であり、しかもその解決にむけ一刻も早く行動に移ることである。  | 平井委員   | 意義・課題   |      |      |